

平成19年度病虫害発生予報第4号

長崎県病虫害防除所長

【予報の概要】

農作物名	病虫害名	発生程度	
		現況	予想
早期水稲	いもち病(穂いもち) 紋枯病 穂吸汁性カメムシ類	- 並 並	やや少 並 並
普通期水稲	いもち病(葉いもち) 紋枯病 縮葉枯病 コブノメイガ(防除情報第7号) トビイロウンカ(防除情報第7号)	やや少 並 並 多 やや多	やや少 並 やや多 多 やや多
いちご (育苗床)	うどんこ病 炭疽病 輪斑病 ハダニ類	やや少 並 並 並	やや少 やや多 やや多 並
かんきつ	かいよう病 黒点病 ミカンハダニ チャノキイロアザミウマ	やや多 やや少 やや少 多	多 並 やや少 多
びわ	がんしゅ病 灰斑病 ナシヒメシンクイ	やや多 やや多 並	やや多 やや多 やや多
なし	ナシヒメシンクイ (防除情報第8号)	多	多
ぶどう	べと病	やや少	並
果樹共通	カメムシ類	少	少
茶	炭疽病 チャノキイロアザミウマ チャノコカクモンハマキ チャノホソガ カンザワハダニ チャノミドリヒメヨコバイ クワシロカイガラムシ	並 やや少 やや少 並 やや少 多 並	並 やや少 やや少 並 やや少 多 並

【発生予報】 本文の()内は平年値

早期水稲

1. いもち病(穂いもち)

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の巡回調査(41筆)の結果、葉いもちの発病株率0.0%(1.5%)、発生圃場率4.9%(18.1%)であった。

イ 7月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、葉いもちの発生を認めなかった(発病株率0.3%)。

2. 紋枯病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の巡回調査(41筆)の結果、発病株率は0.3%(0.5%)、発生圃場率は12.2%(16.0%)であった。

イ 7月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発病株率は58.0%(26.0%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 粉剤及び液剤は株元に薬剤が十分付着するよう丁寧に散布する。

イ 薬剤散布にあたっては圃場周辺へ薬剤が飛散しないよう十分注意する。

3. 穂吸汁性カメムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬のイネ科雑草におけるすくい取り調査(37地点)の結果、捕虫網による10回すくい取りあたり虫数は9.6頭(14.5頭)であった(表)。また、主要4種の発生地点率はいずれも平年並であった(表)。

表 イネ科雑草でのすくい取り調査における虫数の推移

種類名	10回すくい取りあたり虫数						発生地点率	
	H15	H16	H17	H18	平年	H19	平年	H19
ホハリカメムシ	0.3	0.8	0.7	0.4	1.0	0.37	60.9	51.4
クモハリカメムシ	0	0.1	0.0	0.0	0.6	0.11	9.5	10.8
シラホシカメムシ	0.2	0.2	0.3	0.2	0.5	0.13	35.2	32.4
アカシガミカメ	4.9	8.5	15.9	10.4	12.4	9.0	70.2	73.0
計	5.4	9.6	16.9	11.1	14.5	9.6	-	-

注) 数値は10回すくい取りあたりの虫数

すくい取り虫数の平年はH9~18年の最大・小値を除いた平均値

発生地点率の平年はH13~18年の平均値

(3) 防除上注意すべき事項

ア 出穂期以降の除草は本田へのカメムシ類の飛来を助長するので行なわない。

イ 本田への飛来が多くなる夕方に薬剤散布すると効果が高い。また、周辺雑草地も含めて広域一斉防除をおこなうと防除効果が高まる。

ウ 薬剤散布にあたっては圃場周辺へ薬剤が飛散しないよう十分注意する。

普通期水稻

1. いもち病(葉いもち)

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の巡回調査(114筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.1

％、発生圃場率 3.3％)

イ 7月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

ウ 7月以降、葉いもちの感染に好適な条件を満たした日が巖原、芦辺、平戸、佐世保、大瀬戸、口之津で1～3日認められた（表）。

表 7月以降のBLASTAM（葉いもち感染好適日出現判定モデル）判定結果

	鰐浦	巖原	芦辺	平戸	松浦	佐世保	有川	大瀬戸	長崎	島原	福江	口之津	野母崎
7/1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

注) : 感染好適条件
 : 準感染好適条件
 ? : 判定不能

2. 紋枯病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の巡回調査（114筆）の結果、発病株率0.0％（0.0％）、発生圃場率1.8％（1.3％）であった。

イ 7月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 粉剤及び液剤は株元に十分薬剤が付着するよう丁寧に散布する。

イ 薬剤散布にあたっては圃場周辺へ薬剤が飛散しないよう十分注意する。

3. 縞葉枯病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の巡回調査（114筆）の結果、発生株率は0.0％（0.0％）、発生圃場率は2.7％（1.7％）であった。

イ 7月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

ウ 7月上旬の巡回調査（114筆）の結果、ヒメトビウンカの株当たり虫数は0.0頭（0.0頭）、発生圃場率は17.5％（9.4％）であった。

エ 7月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、寄生を認めなかった（寄生株率1.8％、株当たり虫数0.0頭）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発病株は伝染源となるので見つけ次第できるだけ抜き取る。

イ ヒメトビウンカの圃場での発生に注意する。

4. コブノメイガ

7月17日付け平成19年度病害虫発生予察防除情報第7号による。

5. トビイロウンカ

7月17日付け平成19年度病害虫発生予察防除情報第7号による。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発病株率2.7%(4.6%)、発生圃場率3.6%(4.5%)であった。

2. 炭疽病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の巡回調査(33筆)の結果、*G.cingulata*の発生は認めなかった(発病株率0.05%、発生圃場率1.9%)。また、*C.acutatum*(通称:葉枯炭疽病)の発生は発病株率0.6%(0.4%)、発生圃場率6.1%(7.3%)であった。

イ 6月6半旬~7月2半旬にかけて降雨や強風が多かった。さらに、向こう1ヶ月間の降水量は、平年並みか多い見込みであり、本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 育苗床が多湿にならないように、連続した長時間の灌水はしない。密植を避け、排水対策を確実に行う。

イ 発病した子苗およびその周辺の株は速やかに処分する。除去した発病株や茎葉は、圃場内やその周辺に放置しない。

ウ 葉の展葉間隔にあわせて定期的に薬剤防除する。*C.acutatum*による炭疽病には、バイコラール水和剤は防除効果が低いので注意する。

3. 輪斑病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発生株率3.1%(0.7%)、発生圃場率2.1%(9%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 被害葉は伝染源となるため栽培上支障のない範囲で除去する。また、除去した被害葉は圃場周辺に放置しない。

イ 肥料不足は発病を助長するので留意する。

ウ 過湿条件は発病を助長するので、密植を避け、通風を良くする。

4. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(33筆)の結果、寄生株率0.6%(0.6%)、発生圃場率6.1%(4.3%)であった。

かんきつ

1. かいよう病

(1) 予報内容

発生程度 多

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発病葉率は1.3%(0.8%)、発生圃場率が43.6%(22.8%)であった。

イ 6月6半旬～7月2半旬にかけて降雨や強風が多かった。さらに、向こう1ヶ月間の降水量は、平年並か多い見込みであり、本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 今後、台風の襲来時に急速に被害が拡大する可能性があるため、薬剤を散布する場合は、必ず台風接近前に薬剤を散布する。

イ 銅水和剤は高温時の散布や樹勢低下樹への散布で薬害が出やすいので注意する。なお、コサイド水和剤などの銅水和剤ではクレフノンを必ず加用する。

2. 黒点病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発病果率は0.5%(2.6%)、発生圃場率は17.9%(17.9%)であった。

イ 7月上旬に平年より多い降水量があり、本病の発生にとって好適な条件が続き、今後の降水量も平年並か多い見込みである。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤の効果は降水量200～300mm程度で低下するので、7月上旬の降雨以降に薬剤を散布していない圃場では早急に散布する。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(39筆)の結果、寄生葉率は3.5%(12.1%)、発生圃場率は28.2%(47.3%)であった。

4. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 多

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の巡回調査(39筆)の結果、果梗部の被害果率は3.8%(0.7%)、発生圃場率は46.2%(7.4%)、果頂部の被害果率は0.9%(0.1%)、発生圃場率は12.8%(1.1%)であった。

イ 県予察圃場(諫早市)での黄色粘着トラップの誘殺量は平年並に推移している(図)。

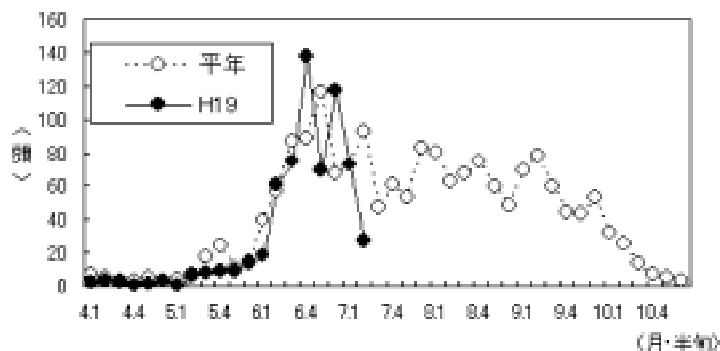


図 チャノキイロアザミウマの誘殺状況(諫早:黄色粘着トラップ)
※平年は平成9～18年の平均

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 下表の予測発生ピーク5日前からピーク日に薬剤散布をすると防除効果が高い。
イ 発生が多い園では、1果当たりの寄生虫数が7月中では0.1頭、8～9月では0.3頭に達する前に防除を行う。
ウ 茶、かき、ぶどう、イヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

表 チャノキイロアザミウマ発生予測プログラムによる発生ピーク

地区名	多良見 舟津	長与 吉無田	西彼 大串	諫早 川内	大村 小路口	佐世保 早岐	国見 神代	北有馬 馬谷川
第4世代(本年)	7/20	7/19	7/24	7/18	7/19	7/21	7/18	7/16
“(平年)	7/21	7/20	7/26	7/18	7/21	7/23	7/18	7/17
第5世代(本年)	8/6	8/5	8/10	8/3	8/5	8/7	8/4	8/2
“(平年)	8/7	8/6	8/12	8/4	8/7	8/9	8/4	8/3

- 注1：発生ピーク日は各地区の選果場がある地点で算出している。
注2：プログラムに使用する気温データには、ながさき農林業情報システム500mメッシュを利用。
注3：発生ピーク日は各地区の選果場（佐世保は旧選果場）がある地点で算出している。同一地区内の山間部では、表より10日～2週間程度遅れる。

びわ

1. がんしゅ病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発病枝葉率は2.8%(1.2%)、発生圃場率は70%(35%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア ナシヒメシンクイの食入跡から感染が拡大するので、がんしゅ病の防除と同時にナシヒメシンクイの防除も行う。
イ 幹に病斑がある場合は罹病部を削り取り、薬剤を塗布して傷口を保護する。

2. 灰斑病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発病枝葉率は69.3%(30.3%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

芽の伸長期に合わせて薬剤散布を行う。

2. ナシヒメシンクイ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

- ア 7月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発生を認めなかった(寄生枝葉率0.1%、発生圃場率3.3%)。
イ フェロモントラップ(諫早市)での誘殺量は平年より多く推移している(図)。

(3) 防除上注意すべき事項

食入口ががんしゅ病の感染拡大の要因となるので、がんしゅ病と同時に防除する。

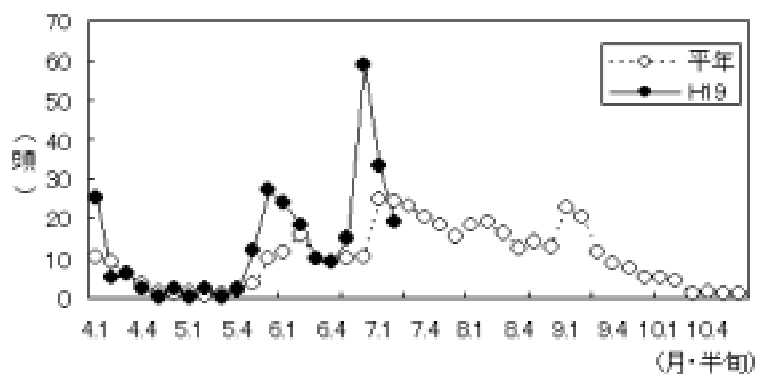


図 ナシヒメシンクイの誘殺状況(誘早:フェロモントラップ)
※平年値は平成9～18年の平均

なし

ナシヒメシンクイ

7月17日付け平成19年度病害虫発生予察防除情報第8号による。

ぶどう

べと病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率0.3%、発生圃場率11.5%)。

イ 向こう1ヶ月間の降水量は、平年並か多い見込みであり、本病の発生に好適である。

果樹共通

カメムシ類

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

ア 各地区のフェロモントラップ及び予察灯の誘殺量は平年より少なく推移している(図)。

イ 6月下旬に実施したヒノキきゅう果ピーティング調査の結果、寄生を認めなかった。

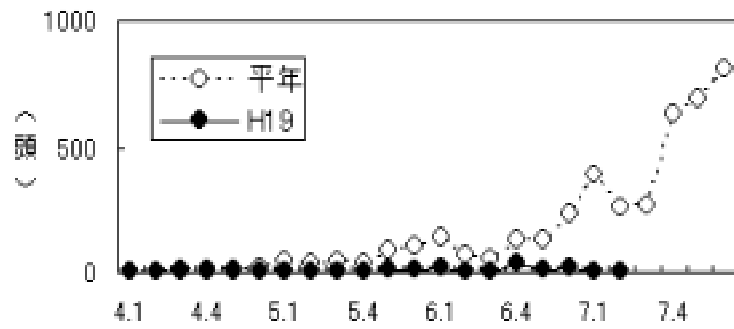


図 チャバネ・ツアアオカムシの誘殺状況(球摩:黄色コネクト)
※平年値は平成11~18年の平均

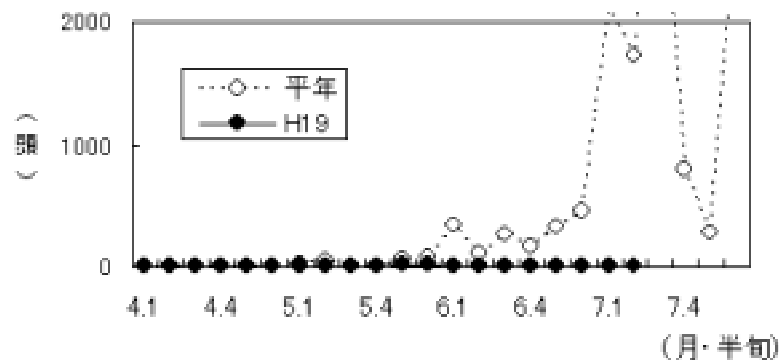


図 チャバネ・ツアアオカムシの誘殺状況(多良見:黄色コネクト)

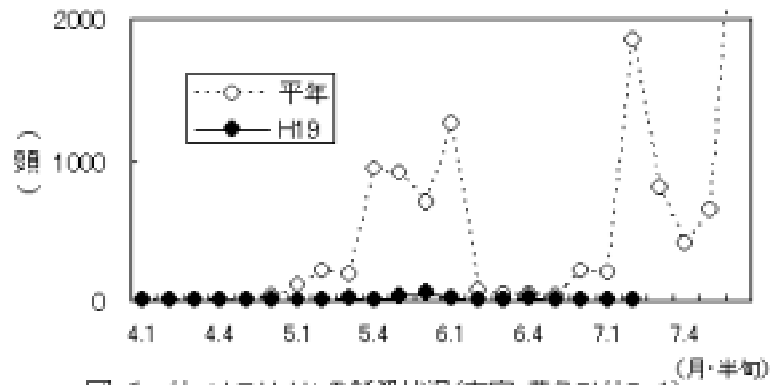


図 チャバネ・ツアアオカムシの誘殺状況(有家:黄色コネクト)

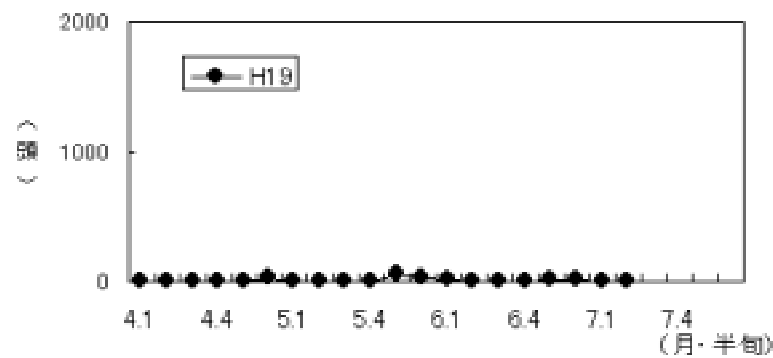


図 チャバネ・ツアアオカムシの誘殺状況(西彼:黄色コネクト)

茶

1. 炭疽病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡あたり発病葉数は7.3枚(8.3枚)、発生圃場率は60.0%(64.9%)であった。

2. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイに5回×4カ所)は2.9頭(17.0頭)、発生圃場率は60.0%(81.0%)であった。

3. チャノコカクモンハマキ

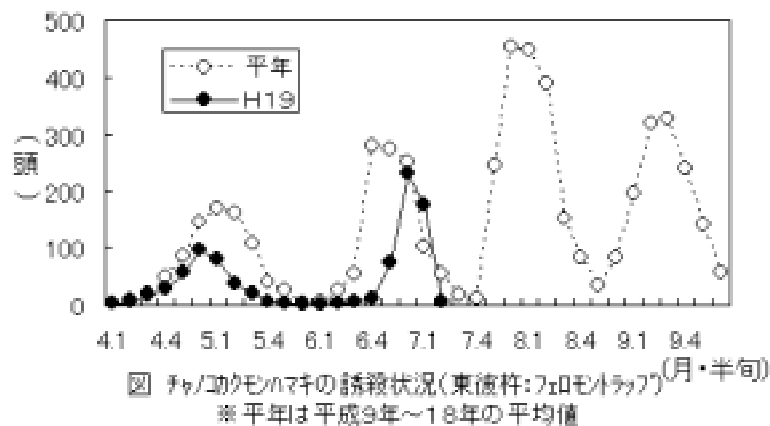
(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡あたりの巻葉数0.1枚(0.3枚)、発生圃場率は、10.0%(11.9%)であった。

イ フェロモントラップでの誘殺量(東彼杵茶業支場調査)は平年よりやや少なく推移している(図)。



4. チャノホソガ

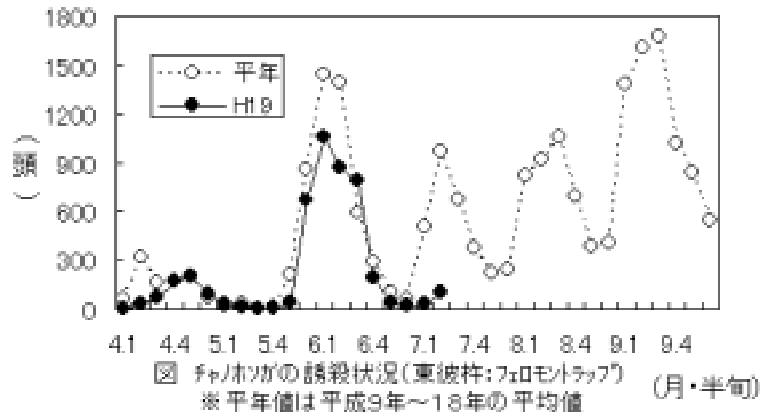
(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡あたりの巻葉数0.2枚(0.1枚)、発生圃場率は、20.0%(5.8%)であった。

イ フェロモントラップでの第1世代の誘殺量(東彼杵茶業支場調査)は平年並であった(図)。



5. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(20筆)の結果、発生を認めなかった(寄生葉率 0.2%、発生圃場率 9.6%)。

6. チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報内容

発生程度 多

(2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイに5回×4カ所)は3.2頭(0.9頭)、発生圃場率は65.0%(30.2%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 三番茶を摘採する園では、摘採終了後に薬剤を散布する。

イ チャノミドリヒメヨコバイの幼虫は葉裏に生息するので、薬液が葉裏までかかるよう十分量を散布する。

ウ 幼木園や中切り更新を行った園では、長期にわたり被害を受けやすいので、残効の長い薬剤で防除する。

7. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生株率は4.2%(3.5%)、発生圃場率は40.0%(26.0%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 本虫は年3回発生するが、それぞれの世代のふ化盛期が防除適期である。

イ 1回脱皮してロウ質のカイガラを作りはじめると薬剤の効果が低下するので、下表の第2世代予測ふ化盛期当日～5日後に散布する。なお、独自にピーク日を現地調査し防除適期を判断している地域ではその判断を優先する。

ウ ふ化盛期日が過ぎている園では早急に有機リン剤による防除を実施する。

エ 株内の枝や株元に薬液がかかるように十分量散布する。

オ 発生を認めていない園でも新たな発生に注意する。

表 「有効積算温度則による防除適期予測法」によるクワシロカイガラムシのふ化最盛期予測日（第2世代）

地区名	東彼杵 赤木	東彼杵 太の原	世知原 板山	世知原 木浦原	五島 大津
平成19年	7/18	7/26	8/1	7/24	7/11
平年	7/18	7/26	8/1	7/23	7/16

注1：ふ化最盛期予測日は「有効積算温度則による防除適期予測法（東彼杵茶業支場）」により算出した。

注2：使用する気温データには、ながさき農林業情報システム500mメッシュ気象データを利用した。

注3：平成19年7月13日現在で予測し（1月1日～7月12日まで実測値）、7月13日以降のデータは過去10年間の平均値を利用した。

注4：第2世代の予測値は、現地調査による第1世代のふ化最盛期日以降の有効積算温度による。

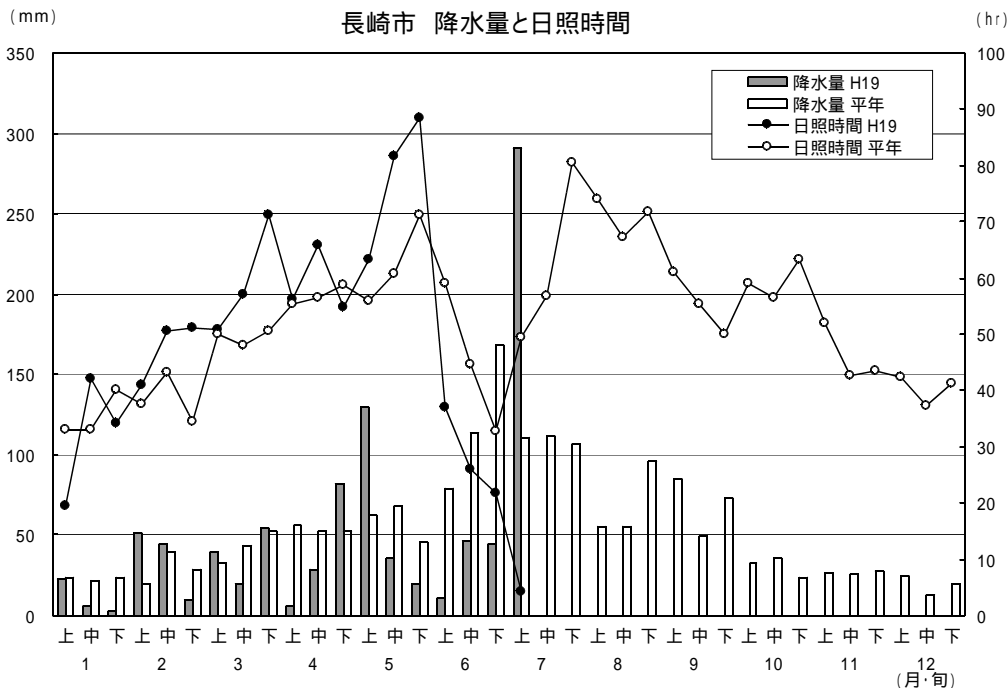
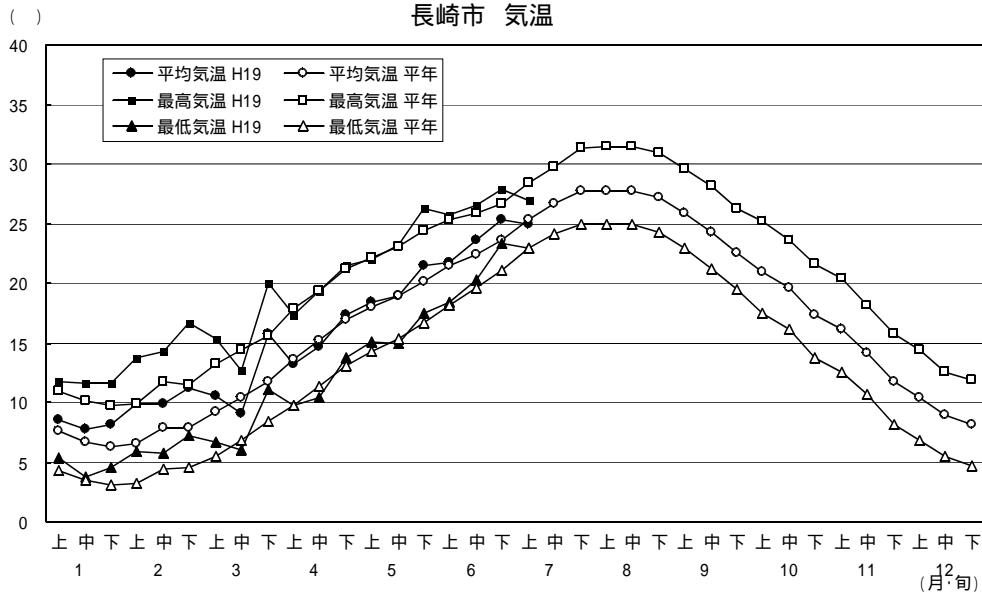
【参考】

気象 (平成19年7月13日発表 1か月予報 福岡管区气象台)

要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	30	40	30
降水量	20	40	40
日照時間	40	40	20

予報対象地域：九州北部地域



「農薬使用基準の遵守について」
 農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルをよく読み、使用基準（適用作物、適用病害虫、使用濃度、使用量、使用時期、総使用回数）及び使用上の注意事項を守って、適正に使いましょう。

文中の市町村名は合併前で表記しています。
 病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。
 「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jpnp.ne.jp/nagasaki/>
 「防除所ホームページ」を利用して、ながさき農林業総合情報システム（一部会員制）
 アドレス：<http://www.n-nourin.jp/> やその他の情報を閲覧することができます。
 この情報に関するお問い合わせは、電話またはEメールでお願いします。
 長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027， Eメール：kngs0301@sp.jpnp.ne.jp